

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
教科指導	<p>個々の生徒の実態に応じたきめ細やかな指導をし、基礎学力を定着させる。</p> <p>(1) 新教育課程の具体的検討 (2) 総合的学習の時間の充実 学期5回 生徒満足度80%以上 (3) 習熟度に応じた特別授業の充実 英国数で実施 生徒満足度80%以上 (4) 外国人生徒への支援の充実 週10時間の取り出し授業の実施 (5) 三修制希望者への支援の充実 自校スクーリング実施・単位修得</p>	<p>(1) 22年度中に新教育課程を策定 (2) 26回38時間実施した。生徒満足度85% (3) 3教科で実施。生徒満足度84% (4) 外国人生徒23名。日本語指導を必要とする生徒9名。1年9時間2年6時間の取りだし授業を実施 (5) 併修生は2年生1名3年生2名 自校スクーリングを実施し単位はすべて修得した</p>	<p>(1) 新課程の趣旨や生徒の現状を踏まえ、国語や数学の基礎的な学力が身に付くように習熟度別の学習をふくめ作成した。 (2) 参加率も高く、生徒には概ね好評だった。 (3) 「基礎国語」においては91%の生徒が満足しているとの結果が出た。 (4) 日本語能力に差があるため、教材の準備が大変になってきている。指導方法を引き続き検討していく必要がある。 (5) 生徒には好評であるが、今後併修生が増えた場合、新たな問題が出てくる可能性がある。</p>
生徒指導	<p>生徒の実態をふまえ、基本的な生活習慣や規範意識を身につけさせる指導をする。</p> <p>(1) 遅刻・早退・無断外出を防止し、中途退学者の数を減らす (2) 安全で健やかな学校生活を送れるような環境づくりに努める 生徒の学校生活への安心感80%以上</p>	<p>(1) 怠学の規定を見直し、9月より実施。無断欠席・早退が激減した。中途退学者は14名で昨年より6名増加。 (2) 職員会議の度に情報交換を行い、生徒一人ひとりの状況を把握した結果、学校への安心感91%。</p>	<p>(1) 中途退学者は、22年度入学生からは改善の傾向が見られ、今後とも中退者減少にむけて努力する。 (2) 生徒の情報を年度を越えて正確に伝える工夫が必要である。</p>
進路指導	<p>生徒の自己理解を深め、主体的に進路を選択できるように指導の充実をはかる。</p> <p>(1) 有職率の向上と不安定雇用の改善 有職率80%以上 (2) キャリア教育の充実 各学期1回のキャリア教育実施 年2回の自己を見つめる作文作成</p>	<p>(1) 有職率87% (2) 学期1回のキャリア教育実施 就活ゼミに5名を参加させて、将来を考えさせているが、能力的な問題もあり、定職につくのは難しい。</p>	<p>(1) ハローワークへの同行や、職場訪問を行ったが、言語の問題で就労が難しい外国人生徒を支援する体制が必要である。 (2) 外部講師を招いての講演等を行ったが、就職先の開拓が難しく、卒業後の就職支援を考えていかねばならない。</p>

組織能力向上	<p>教職員が幅広く知識やスキルを身につけるため、校内外の研修に参加する。</p> <p>(1) 一人あたり、年間5回以上参加</p> <p>(2) 月2回情報共有をはかる</p> <p>最新の情報を提供する場として、Web ページを有効活用する。</p> <p>(1) 年間閲覧者4万以上</p>	<p>年間5回以上の研修を行った。本年は現職教育として、還流学習会を実施した。職員会議の度に情報交換を行った。</p> <p>定時制振興会や中学校訪問を通じて、地域への情報公開を行った。Web の閲覧は4万5千超であった。</p>	<p>外国人生徒の増加にともない、外国人生徒の指導方法について研修を深め、指導力の向上をはからなければならない。</p> <p>学校関係者評価委員に地域の人を多数起用して、地域から信頼される学校づくりに努める。</p>
--------	---	---	---

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<p>(1) 教職員も生徒も少人数なので、個々の考えや状況が把握しやすく、教職員間の問題意識の共有化がはかりやすい。</p> <p>(2) 積極的に地域社会へ情報提供を行っており、地域やPTA・同窓会・関係機関等の協力が得やすい。</p> <p>(3) わかりやすい授業をめざして、各教科で取組を続けており、個々の生徒に丁寧に対応できる。</p> <p>(4) 定時制教育に関する研修会や学習会への参加も積極的に行われ、指導力向上にむけた取り組みも実施している。</p>
弱み	<p>(1) 少人数であるので個人の経験や力量に負うところが大きい。</p> <p>(2) 教職員の異動が多く、メンバーが変わっても継続できる方策を確立する必要がある。</p> <p>(3) 生徒間の学力の差が大きく、個々に対応せざるをえない。</p> <p>(4) カウンセラーの常時配置がなく、生徒や保護者と落ち着いて話のできる部屋がない。</p> <p>(5) 生徒数が少ない分、予算が少ないので、活動が制限される。</p>

(3) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
<p>(1) 夜間定時制の特長を生かしながら、規範意識を育て、安全で安心な学校づくりをする。</p> <p>(2) わかりやすい授業で学習意欲を高め、基礎学力を定着させる。</p> <p>(3) 学校行事や総合的な学習の時間を通して、職業意識を高め、関係機関と連携して進路実現をめざす。</p> <p>(4) 教職員の能力や資質を高めるために、校内外の研修に積極的に参加する。</p>